

## 港湾・公共交通対策特別委員会審査概要報告書

委員長 大井 正樹

- I 開催年月日 令和元年6月3日(月)
- II 会議時間 午前10時00分～午前11時01分
- III 出席者 [委員] ◎大井 正樹 ○石須 大雄 高瀬 充子  
山口 泰祐 高岡 宏和 藪中 一夫  
中川加津代 金森 一郎  
[議長] 狩野 安郎  
[副議長] 坂林 永喜  
[説明員] 別紙名簿のとおり  
[委員外議員] なし  
[事務局職員] 安東 浩志 松本 武司 宮島 謙治  
室川 弘昭  
[傍聴者] なし

### IV 審査の概要

#### 1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[市長政策部]

- (1) 新高岡駅利用調査結果について
- (2) 新高岡商品開発プロジェクトによる商品造成の実績について

(以下、質疑・質問の内容は「○」、答弁の内容は「△」で表示)

#### 【新高岡駅利用調査結果について】

- 利用者数は本市でカウントしたのか。
- △ 本市が行った調査である。
- JR西日本株式会社において、利用調査は実施しているのか。
- △ JR西日本から報道発表されることはあるが、調査方法や定期的の実施しているかについては、把握していない。
- 利用者数がかかなり伸びていることを、今後もJR西日本に対してアピールし、

- 「かがやき」定期便の停車に向けて、しっかり取り組んでいただきたい。(要望)
- 説明資料に近年の休日における乗降者数を記載しているが、平成 30 年 6 月 24 日、30 年 3 月 25 日、29 年 6 月 25 日の乗降者数を参考に挙げた理由は。
  - △ 継続して毎年行っている調査であり、例年 5 月 1 日に調査を行っていないため、参考として直近の数値を挙げている。
  - 記念すべき国民的な行事が行われた 5 月 1 日と、通常の土曜・日曜日を比較するのはどうかと思う。今後は、比較の対象とした理由を明確にして、数値を示していただきたい。(要望)
  - 団体利用者は、駅の自動改札機を通らず、入出場していると聞いている。そのため、J R 西日本が公表する数値と本市の調査結果にズレが生じるのではないのか。
  - △ J R 西日本の乗降客数のカウント方法については公表されておらず、団体利用者の取り扱いは把握していない。本市の調査では、目視により改札を通過した方を、団体・個人の区別なくカウントしている。
  - 今後、新高岡駅の存在を J R に対して、どのようにアピールしていくのか。また、新高岡駅を活性化させるための方針と調査結果をそうした材料に活かす予定はあるのか。
  - △ 新高岡商品開発プロジェクトは、J R 西日本との取り組みであり、その成果をしっかりと調査、分析していくとともに、カウンター調査の結果についても、本市の独自調査ではあるが、J R に確認いただき、今後も利用促進に協力していただけるようしっかりとお願いしていきたい。

**【新高岡商品開発プロジェクトによる商品造成の実績について】**

- 「飛越能の玄関口」の魅力を深堀していくとのことだが、「玄関口」というフレーズに物足りなさを感じる。できれば、本市が観光の通過点にならないように、「飛越能の奥座敷」までにはいかなくとも、観光客に滞在していただけるような方策は何か考えているのか。
- △ 現在、新元号の「令和」で万葉が非常に注目されており、それを前面に押し出していきたいと考えている。また、J R 西日本や旅行会社と一緒にプロジェクトに取り組み、県西部の観光素材の掘り起こしも行っており、ストーリー性やルート立てにより、県西部全体を周遊するような旅行商品を、本市としてプロジェクトにおいて提案していきたい。さらに、新幹線まちづくり推進高岡市民会議のワーキングにおいて、実際にプレイヤーになっていただいている事業者の方々の意見を参考にしながら、飛越能全体を含めた観光誘客につなげていきたい。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

**〔産業振興部〕**

- (1) 伏木港開港 120 周年記念事業の開催について
- (2) 2019 年伏木富山港クルーズ客船入港予定について

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

**【伏木港開港 120 周年記念事業の開催について】**

○ 若い世代を中心とした事業を実施するとのことだが、どのように若者を巻き込んでいくのか。

△ 伏木港絵画展示会は地元の保育園から中学生までを対象に、北前船スタンプラリーは小学 1 年生から 4 年生までを対象に、伏木港見学ツアーは地元の中学生・高校生・高等専門学生・大学生を対象に、パネルディスカッションは中学生、高校生など若者の参加を中心に行う。また、シンポジウムでは、若者を対象とした伏木の歴史を振り返る内容の紙芝居を行うなど、若者をターゲットとしたイベントで構成している。

本事業により、若い人たちに昔の伏木港を知っていただくとともに、思い出を作っていただくことで、進学、就職等で地元を離れる子ども達に、帰って来てもらいたいという願いを込め、1 年間かけて、伏木の地元住民、子ども達に PR していきたい。

○ 前回の記念事業の開催から 10 年経過しており、当時の高校生が楽しい思いを持ちながら、親として参加することもあると思うので、親子で楽しく学べるような機会を作っていただきたい。(要望)

○ 富山湾が加盟する「世界で最も美しい湾クラブ」と本事業にはどのような関連があるのか。

△ 湾クラブでは、富山湾岸沿線の海岸を PR するという目的があり、その点では、伏木港や雨晴海岸と関連する部分はあると思う。現在の富山県の発展の礎を築いてきたのは伏木港であるが、本事業と海外の方々への PR との関連性については、直接関係はないと思っている。

○ 伏木港を活性化していくうえで、人が集まる所で、PR は必ずしなければならないと思う。湾クラブと非常に関連があると思っているので、関連性を持たせて本事業が行われるべきと思うが、見解は。

△ 湾クラブのエクスカーショで道の駅「雨晴」に訪れていただくことになっているが、その期間において、昔からの伏木港についてのパネル展の開催を調整している。そうした意味で、伏木港を PR することを考えているため、ご理解いただきたい。

**【2019 年伏木富山港クルーズ客船入港予定について】**

○ 金沢港における 2019 年のクルーズ客船入港予定は把握しているのか。

△ 64 回の入港を予定している。

○ 伏木港の近隣にあるにもかかわらず、客船の入港数に年々開きが出ているのは、こういったところに課題があると受け止めているのか。

△ 毎年、寄港誘致の PR のため、各クルーズ船社に訪問している。その際、船社の方によく言われることは、伏木港など能登半島の付け根にあたる部分に立地す

る港に入港するには、6～8時間かかるということである。船客からすると、能登半島を回るだけで、航行に1日程費やされるのが、ネックの1つになっているとのことである。客船の寄港にあたり、経済効果を狙っているが、最近では、金沢港に到着した観光客の一部が、市内の事業所や観光地を訪れていると聞いている。今後も、引き続き、伏木港に寄港していただけるように、働き掛けていきたいと考えている。

- 金沢港に入港した船客に対するPR、街頭宣伝は行っているのか。
- △ 直接行っていないが、船社やそれに関わる旅行会社に、本市の観光地、食等をPRしている。おそらく、船社が企画する寄港地観光プログラムの1つに組み込まれていると考えている。
- 北陸新幹線もそうだが、金沢が独り勝ちの状態であり、港についても金沢になかなか追従できない状態を見ると、金沢市や石川県といった県を跨ぎタイアップするような行政のつながりを強化していく必要があると考えるが、今後、そういった方向性については、検討しているのか。
- △ 北陸新幹線については、沿線自治体で構成する協議会等で連携して、各沿線地域に寄っていただく取り組みについて話し合っている。金沢港の状況については、昨年職員を研修に派遣して、把握に努めている。金沢港に到着した観光客を高岡に引き込むことも1つの方法と思っており、金沢市とは一度話し合ってみようと思っている。
- 県西部6市でも、行政の垣根を越えた連携の強化が図られつつある。北陸新幹線関連の施策が飛越能地域への誘客拡大を目指しているように、是非、行政の垣根を跨いで、相乗効果が図れるよう積極的に進めていただきたい。(要望)
- △ 旅行会社等を通じて、間接的に金沢港の寄港地ツアーに、本市の観光地等を組み込んでもらえるようお願いしている。客船の寄港先が金沢港一辺倒とならないように、伏木港に寄港していただくことを強力でPRしていきたい。
- クルーズ客船の寄港誘致は、地域間競争であるため、攻めの姿勢で臨んでいただきたい。(要望)
- クルーズ客船を、新人議員や地域住民に見学してもらうことで、伏木港の発展につながればと考えている。令和元年8月22日に伏木港に入港を予定している「飛鳥Ⅱ」の船内を、地域住民等が見学することは可能か。
- △ 見学の希望については、船社に伝えたいと思うので、ご理解いただきたい。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[都市創造部]

- 伏木港の整備状況について

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

### 【伏木港の整備状況について】

- 「飛鳥Ⅱ」に乗船し、伏木港を見渡した際、鉄くずの山が港の美観を損ねているのが、非常に気になった。国・県から支援を得られる事業はないのか。
- △ 伏木港の取り扱い貨物の1つであり、全国各地でも同様の状況にある。クルーズ船の来港にあたり、港運会社と調整し、できる限り景観が向上するよう取り組んでいる。港の機能を踏まえ、全く無くすことは、現状難しいと考えている。
- クルーズ船誘致の観点から、綺麗な状態の伏木港を観てもらえるよう、取り組みを進めてもらいたい。(要望)

## 2 その他

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

### 【コミュニティバスについて】

- 地域の実情やニーズに柔軟に対応できる市民協働型の地域交通システムという名の下、本市では地域バスと地域タクシーの導入を進めており、説明会や出前講座を行っているとしている。コミュニティバスの廃止以降の説明会や出前講座の開催実績は。
- △ 説明会の形式では、8カ所、10回以上行っている。それ以外に20回程、地域の相談に応じている。
- 説明会や出前講座では、どういった意見や要望があるのか。
- △ コミュニティバス「こみち」が廃止されて困ったという声はある。「こみち」は、民間バスと重なるように路線が設定されており、その点の理解が不十分であることが多々見受けられた。ある地域では、高岡のメインストリート（末広町通り～昭和通り）となる道路に、高岡駅行きの路線バスが1日約49本運行していることを伝えると、驚いたような反応があった。別の地域では、住民が所有する自家用車に乗り合わせることで、対応している地域もあり、地域で事情が異なることが明らかになった。今後は、廃止したコミュニティバスの代替手段として、近隣の交通ネットワークを利用できるようなアドバイスや啓発を積極的に行っていきたい。
- こうした地元住民の声に対する受け止めは。
- △ 地域によって、かなり意見が異なることが分かってきた。交通に不便を感じる住民が多ければ、市民協働型の交通を提案させていただいている。また、既存の交通をどのように使うのかといった相談や、移動販売車や購入した物を自宅に搬送してくれるサービスなど、多様な事例を紹介している。地元住民とコミュニケーションするなかで、真に必要な交通を提案していくことが、市の役割だと思っている。
- 地域バスや地域タクシーの導入に向けて、前進している地域はあるのか。もし、導入が進まないのであれば、その原因は。

- △ いくつかの地域において、導入に向けて進んでいる。地域タクシーと地域バスの両方を提案しているが、導入の難易度を考慮して、皆さん迷われる。1つ言えるのは、地域の代表の方が、地域をまとめるのにかなりご苦労されているようである。そうした方にご助力できるよう、地域での積極的な対話に努めている。
- 地域の要望は強く、まとめるのは大変だと思う。要望が強い地域では、積極的に市が関与して、進めていただきたい。(要望)
- コミュニティバスを含め、市民参加により、交通政策やまちづくりを総合的に考える場を設けてはどうか。
- △ これまで、買い物支援を含めた市内での検討や、地域バス・地域タクシーといった市民協働型での新たな公共交通システムの導入について、様々な提案をしながら取り組んできている。地域の方々に説明していくなかで、地域で実情が異なることも分かってきた。今後は、こうしたことも含め、市民の様々な声を吸い上げつつ、全体として、どのように進めて行くべきか検討していきたい。
- 地域を回るなかで、コミュニティバスが廃止されて不便になったという声が寄せられる。引き続き、市民が日常的に使う公共交通の確保に、ご尽力いただきたい。(要望)

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

港湾・公共交通対策特別委員会 当局説明員（12名）

副市長	村田 芳朗		
市長政策部長	福田 直之	都市創造部長	堀 英人
市長政策部政策監 次長	赤阪 忠良	都市創造部次長	根上 幹雄
総合交通課長	上田 浩樹	都市創造部参事(兼務)	渡辺 朋洋
		都市計画課長	久郷 聡
産業振興部長	川尻 光浩	道路整備課長	橘 茂徳
産業振興部次長 参事	渡辺 朋洋	土木維持課長	広田 利和
みなと振興課長	中出 裕嗣		